

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 320

事務事業名	畜産物販売促進事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	農林水産部		
課名	農業水産課		
課長名	下玉利 輝幸	内線	266
担当者名	古賀 誠司	内線	253

基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040104	魅力ある農林水産業の振興
施策		畜産業の振興
関連施策		

会計	一般	
款	6	農林水産業費
項	1	農業費
目	4	畜産業費
事業コード	060000	畜産物販売事業

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画	公共牧場機能強化事業実施計画書	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	畜産農家及び市民(消費者)		
誰(何)に対して事業を行うか			
意図	「地産地消」の取り組みとして、地元産農産物の販売・普及推進を図る。 また、市内畜産農家の方々と一般市民(消費者)が直接交流する事により、BSE・鳥インフルエンザ等、食に対する安心・安全に対する意識の高揚に努める。		
対象をどのような状態にしたいか			
事業概要	年に1度、高良谷牧場で「牧場まつり」を開催し、地元産農産物の販売及び普及の促進を図っている。 様々なイベント(コーナー)を介して、畜産農家と一般市民(消費者)が直接触れ合い交流することにより相互の理解を深め、食の安心・安全をPRし意識の高揚に努める。 この牧場まつりは、畜産農家などで構成する「牧場まつり実行委員会」に業務を委託する。		
意図を達成するために実施することは何か			
事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 年度	実施方法	委託
根拠法令、要綱等	食糧農業農村基本法		
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 農家の参加者	計画値	51	41	41	41	
		実績値	26	36	39		
	達成度	%	51.0%	87.8%	95.1%		
	② イベント数	計画値	21	21	21	21	
実績値		21	21	21			
達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%			
成果指標	① 参加人員	計画値	2,000	2,000	2,000	1,500	
		実績値	750.0	1,218.0	1,165.0		
	達成度	%	37.5%	60.9%	58.3%		
	② 売り上げ	計画値	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	
		実績値	1,215,450	1,158,750	1,609,200		
	達成度	%	101.3%	96.6%	134.1%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	600	600	600	600	600	600	600	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	600	600	600	600	600	600	600	
② 人件費(千円)	2,305	2,711	2,208	2,222	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.29	0.35	0.30	0.30	事業概要のとおり	事業概要のとおり	事業概要のとおり	
時間外勤務(時間)		33	46	20				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	2,905	3,311	2,808	2,822				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成27年11月1日(日)に高良谷牧場で「牧場まつり」を開催し、1,165名の市民の参加があった。
事業が抱える問題・課題等	農業振興に係る他のイベントとの共同開催を検討する必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	「牧場まつり」イベント開催に合わせ地元産農畜産物の販売・PRを実施し、食の安全・安心に対する意識の高揚及び地産地消を推進するうえで必要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	公共牧場として運用するうえでの一大イベントであり、市内生産者を取り込み地元産農畜産物の販売・PRを実施し、食に対する安全性や理解を深めるため、市が関与し適切な誘導と支援が必要である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	成果指標の参加人員については、2,000人を目標としていたが、1,165名であったものの一定の成果あり。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	農林水産業の振興を実施するうえで、地元産品のブランド化や販路拡大等を考えると、施策目標達成の手段として有効な事業である。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	出店に係る費用等、実行委員会が負担するものと出店する事業所が負担するものを精査し、経費の節減をしており、削減の余地はない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	出店に係る費用等、実行委員会が負担するものと出店する事業所が負担するものを精査し、最小限度の支出に努めており、見直しの余地はない。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持
--------	------

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	農業振興に係る他のイベントとの共同開催を検討する。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。